



Title	堺市への応援活動：公衆衛生の原点を
Author(s)	仲間, いずみ
Citation	大阪公衆衛生. 1997, 69, p. 28-29
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83761
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

堺市への応援活動 ——公衆衛生の原点を

大阪市西保健所

保健婦 仲間いずみ

猛暑のさなか、文字どおり〇ー157パニックで揺れ動く堺市の北東をあずかる金岡保健所へ厚生省の依頼により私たちは派遣されることになりました。公衆衛生に携わる地域で働く保健婦としてここは腕の見せどころと意気込み、乗りこんでみたものの地下鉄新金岡駅は通常どおり何ら変わりありません。しかし、金岡保健所へ一步入ると朝から検便の受付に並ぶ人々の姿が目に入りました。保健所内にはいたる所に消毒液と手洗いのポスター、〇ー157の説明書きがおいてあります。通常の保健所業務どころではないように見うけられ、実際、母子手帳をとりに来る妊婦が、保健所自体汚染されているかのように思い、母子手帳を外で発行してくれと言ってきたそうです。そんな中私たちが応援した内容は感染源と思われる学校給食を食べた学童宅への個別訪問でした。土地勘のない私たちでしたが、金岡保健所の保健婦さんの下準備に助けられ、どうにか1日15～20件の訪問をやりとげるこ

会 員 の 声

とができました。それは本当に地道な内容でした。金岡保健所管内には、公団の団地が多く、階段をあがったり降ったり、保健所だと説明するとまずは苦情を言われたり、それでも“暑い中御苦労様です”と声をかけてくれる人もいました。有症状者数の多さに驚きながらの3日間があったという間に過ぎました。私たちの訪問した数はほんの一部にすぎず、

自分の子供を気使いながら忙しく働く堺市の保健婦の皆様には頭の下がる思いです。

各種伝染病からはじまり、結核予防、乳幼児保健そして成人病予防、高齢化対策と移り変わってきた保健所の役割ですが、今回の応援を通して公衆衛生の原点をもう一度私たちが問われているかのように感じさせられました。